

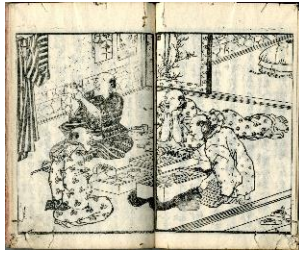
とうじみやげはこねぐさ

#32 温泉土産箱根草

作者：滝亭鯉丈（りゅうてい・りじょう 1777?-1841）

為永春水二世（ためなが・しゅんすい 1818-1886）

刊行：天保15年（1844） - 弘化3年？（1846）



[913. 55/7]

[K97. 85/24]

 解題

 内容

「温泉土産」は角書。江戸っ子の湯本屋塔兵衛、底倉屋宮二、堂島屋木賀蔵の3人が、弥生初旬に箱根七湯に出かけたその道中を描く滑稽本。3名の名前は箱根七湯のうち6つを組み合わせたものである。初編～2編までは高輪から六郷の渡し、神奈川までが描かれ、2編下巻末に「藤沢、小田原2泊の滑稽は帰りがけの駄賃に残し」と記し、3編は塔の沢、4編では宮の下での騒動が描かれている。七湯すべてを描く予定であったようだが、以下は未刊となっている。いわゆる「膝栗毛」もののひとつである。

当館所蔵本は初編から4編（各編3冊、計12冊）まで全編揃いのものと2編中巻3編上下巻のみの2種類がある。初編の下巻には「天保十五年甲辰歳新刻」、3編の下巻には「弘化二年乙巳歳新刻」とある。

3編から二世為永春水へと作者が交代しており、3編上巻冒頭で作者から主人公たち宛ての手紙という形で読者には伝えられている。中村正明はこの交代は鯉丈の死去によるものとしている（『膝栗毛文芸集成 第22巻』）。

■ 作者

初、2編の作者は滝亭鯉丈。江戸後期の戯作者で、初代為永春水の兄という説もあるが定かではない。本名は池田八右衛門。経歴については櫛屋、乗物師、縫箔屋、寄席芸人など様々な説がある。滑稽本作者として名をなした。

『花暦八笑人』『滑稽和合人』などが代表作とされる。

3、4編の作者は二世為永春水。江戸後期から明治時代の戯作者。為永春笑とも称した。姓は染崎。通称久兵衛。明治になって延房と改めた。明治8年(1875)「平仮名絵入新聞」記者となった。著作は『近世紀聞』など。

画は溪斎英泉(けいさい・えいせん 1790?-1848)江戸時代後期の浮世絵師。本名池田義信。文化年間(1804-18)の中、末期ごろから作画を開始し、挿画や美人画、名所絵など様々な作品がある。戯作や随筆も手掛けた。

📖 本文を読む

<翻刻>

「温泉土産箱根草」(『帝國文庫』第26編 博文館 1911) [918/7/26]

「温泉土産箱根草」(『絵本稗史小説』第15集 博文館 1922)

※国立国会図書館デジタルコレクション(インターネット公開)で閲覧可能

「温泉土産箱根草」(『神奈川県郷土資料集成』第10輯 神奈川県図書館協会 1983) [K08/1/10] [K97/46] [C3.3か10]

<影印>

「温泉土産箱根草」(『膝栗毛文芸集成』第22巻 中村正明編 ゆまに書房 2014) ※当館未所蔵

📖 参考文献

興津要「二世為永春水」(『最後の江戸戯作者たち』興津要著 実業之日本社 1976) [913.5/15]

「温泉土産箱根草 解題」(『神奈川県郷土資料集成』第10輯 神奈川県図書館協会 1983) [K08/1/10] [K97/46] [C3.3か10]

中村正明「解題 温泉土産箱根草」(『膝栗毛文芸集成』第22巻 ゆまに書房 2014) ※当館未所蔵